

シオカラトンボ

Pantala flavescens

トンボ科

名前の由来

オスの腹部の白粉を塩辛昆布の白い塩に見立てた。「トンボ」については、東北地方でトンボのことを「ダンブリ」「ドンブ」などといい、「ドンバ」→「トンバウ」→「トンバ」→「トンボ」となったのでは、という説がある。また「飛ぶ棒」が変化したものという説もあるが、「棒」が漢語であり、古代日本語としては不適切との指摘がある。漢字名：塩辛蜻蛉



オス



メス

シオカラトンボ

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類

形態的特徴

体長50～55mm。オスは腹部が灰白色。メスの腹部は黄土色。類似種：シオヤトンボ。シオヤトンボの方が小さい。

生息環境・分布

平地から低山地の池沼。

分布：中国中北部から東北部、中央アジア、フランス、朝鮮半島、台湾に分布。国内分布は、沖縄本島以北の全国。

北海道内では、全域に分布。

十勝地方では、平地から低山地の池沼に普通に生息。帯広市、新得町、浦幌町、大樹町などで確認されている。

食性・他生物との関わり

幼虫時期はユスリカやイトミミズ、魚の稚魚、オタマジャクシなどの水中の小動物。成虫になるとカヤハエなどの昆虫類を捕食する。

幼虫は魚類やカエルなどに捕食され、成虫になるとムシヒ

キアブなどの肉食性昆虫やクモ類、チゴハサブサなど小型の猛禽類やタンチョウなどの鳥類に捕食される。また、大型のトンボ（ルリボシヤンマ類やエゾトンボ類など）に捕食されることもある。

繁殖生態・寿命

卵は約7日で孵化し、幼虫で越冬する。成虫は6月下旬から9月下旬にみられる。産卵はメス単独で、植物のある浅

い水域で打水して行われる。

寿命：幼虫期間約55日、成虫期間1～2ヶ月。

興味深い話

■オスは白っぽいのが、メスは「麦わらトンボ」ともいわれるように腹部が黄土色をしており、別な種類に見える。

■稀にオスと同様な色彩をもったメスが現れるが、このメスがオスのなわばりに入っても、オスに追い出されず交尾

を行うという。オスは色彩だけでなく、行動パターンの違いでもオスメスの違いを認識しているらしい。

■十勝地方のアイヌ語で、トンボ類を「ハンクカチュイ」という。

配慮事項

シオカラトンボは環境適応範囲が広いものと思われ、コンクリートの人工池でも生息することがある。他のトンボが

生息できるような抽水植物が生育している池沼であれば、シオカラトンボにとっても好ましい環境だといえよう。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期												
成虫期												

参考文献

「蝦夷の蜻蛉」 広瀬良宏・伊藤智 自費出版 1993
「北海道のトンボ」 二橋愛次郎 エコネットワーク 2002
「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」 石田昇三・石田勝義・杉村光俊 東海大学出版会 1988
「講談社カラー科学大図鑑 トンボ」 枝重夫 講談社 1982
「日本産トンボ大図鑑」 浜田康・井上清 講談社 1985

「トンボのすべて」 井上清・谷幸三 トンボ出版 1999
「カラー日本のトンボ」 石田昇三・浜田康 山と溪谷社 1973
「名前といわれ 昆虫図鑑」 栗林慧・大谷剛 偕成社 1987
「コタン生物記Ⅲ 野鳥・水鳥・昆虫篇」 更科源蔵・更科光、法政大学出版局 1977